

カルロス・グアスタヴィーノ コレクション

(演奏時間 02:31:30)

ホセ・クーラ : 歌
ズルマ・カブレラ : ピアノ

30年前、私はアルゼンチンのクラシック音楽の作曲家たちを世界中に知ってもらうための旅を始めました。その旅は最も予想外な場所での公演、2003年のオーストラリアで開催されたラグビーワールドカップの開会式であったり、スウェーデンの隕石採石場が屋外劇場になったダルハラであったり、またはロンドンのハイドパークでの野外コンサートであったりと数え切れないほどの会場へと導き、今なお私をいざない続けているのです。

1998年にアルバム《アネーロ〜切望》をリリースした時、幾分困惑したヨーロッパの批評家がいわゆる“フラメンコ精神”に欠けているという批評をしてきました。アルゼンチンでも私のこれらの歌の解釈は正確ではない、なぜなら私がポピュラーミュージックが歌われるべき作法で歌っていないからだ、と言う人もいました。ポピュラーミュージックが歌われる作法を用いることは効果的な選択肢ではありますが、それだけが絶対の選択肢ではないのです。グアスタヴィーノがフォルクローレしか書かなかったと主張して普遍的な古典歌曲のレパートリーにおける彼のふさわしい地位を否定することは、知的に不当な扱いであるだけでなく歴史的な誤りでもあります。それどころか、軽快でポピュラーな旋律での演奏という解釈や室内歌曲の規律に則った演奏という解釈を演奏者に自由にさせる彼の曲の柔軟性の高さこそが、ヨーロッパの作曲家たち、例えばシューベルト、フォーレ、レスピーギらの曲と大きく性格を異にする点です。これらの曲は演奏者に学術的な解釈以外の演奏法をほとんど許しません。そんな的を射ない議論で時間を無駄にするよりも私はこのサンタフェ出身の輝かしい音楽家グアスタヴィーノの室内歌曲とフォルクローレの旋律とが魔法のように融合した歌曲を世界中に連れて回り、捉えどころのないパフォーマンスのより良い調和を更に追求し続けていきたいと思うのです。

このコレクションを構成する4巻は作曲された年代別になっています。正確な日付に多少混乱のある作品もあるため、時系列ではなくある一定の期間別と言って差し支えないと思います。

ロサリオのすばらしいピアニスト、ズルマ・カブレラと共に、このカルロス・グアスタヴィーノへのオマージュが彼のよく知られた作品をリスナーに楽しませるだけでなく、彼の知られざる音楽の宝石たちにも多く光が当たることを、またアルゼンチンの人々だけでなく世界中の音楽家たちがアルゼンチンの最も偉大な作曲家の独特で類い稀な音楽を深く味わうようになることを心より願ってやみません。

ホセ ・ クーラ
2023年4月 マドリードにて